

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800075
法人名	医療法人 吉祥会
事業所名	グループホーム 奏庵
所在地	鹿児島県出水市平和町236番地 (電話) 0996-62-8186
自己評価作成日	平成30年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人のグループホームであり、老人保健施設と同敷地内にあり、緊急時の対応、医療面で安心感を得ている。職員の教育体制も整っており、施設内での研修、また外部研修を積極的に取り入れている。また、施設向上委員会、リスクマネジメント委員会、褥瘡対策委員会など様々な委員会を立ち上げ、毎月の会議で事例の検討や予防策、集計などを話し合い、スタッフ間で周知徹底を図る事で、施設サービスの質の向上に努めている。開設7年目に入り、介護福祉士取得率70%近く取得しており、職員の専門的意識も高く、毎年資格取得に向けて取り組んでいる。また、毎年管理者が、職員一人一人面接を行う事で、年間の目標、評価を明確にしている事や、勉強会・研修を通して、ケアの質の向上に取り組んでいる。入居者にとっては、ホームでの生活を安心して過ごして頂けるように、寄り添うケアを行うと共に、季節の行事を大切にして、昔ながらの巻き寿司や蕎麦打ちなどに参加して頂く事で、喜びの声を頂いており、ご家族からも安心の言葉を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は医療法人グループの一つで、2ユニットで構成されている。同敷地内に老人保健施設や通所リハビリが隣接しており、行き来しての交流や災害時の協力体制も整っている。母体病院の定期的訪問診療や24時間対応の医療連携体制が築かれており、緊急時の対応などが適切に受けられるよう支援している。
- ・夏祭りなどの行事や文化祭に作品等を出展するなど、地域行事にも積極的に参加する一方、法人の行事にも多くの地域住民の参加があり、ともどもの交流の場となっている。また、地域の集会で認知症についての講師を引き受ける等して地域と交流を深めている。
- ・法人全体で各委員会を設置し、定期的に会議や勉強会を開催して、スタッフ間で周知徹底を図ることで、施設サービスや職員の資質向上に向けた取り組みをしている。また、資格取得に向けた支援にも取り組んでいる。
- ・職員間のコミュニケーションも良く、離職者も少ない。利用者に寄り添うケアを大切にして、季節ごとにイベントを計画したり、そば打ちや季節感を大事にした食事など、笑顔でその人らしい生活が出来るように支援している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は朝礼時に唱和し、毎年理念の目標達成に向け、目標を設定し、達成の有無を評価している	法人理念を玄関や事業所内に掲示し、朝礼時の唱和で意識づけしている。法人理念を基に事業所の年間目標を決めて評価をしている。会議等で確認し、理念に沿ったケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店への買い物、行事への参加(文化祭や桜祭り等)ラン伴への参加など通じ地域の一員として交流をしている	地域の夏祭りや文化祭に作品を出展するなど、地域行事に積極的に参加している。法人行事にも多数の地域住民やこどもたちの参加がある、中学生の職場体験学習やボランティアの受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ラン伴等の参加を通じ、認知症の方で普通に街に出て生活して利うという姿を広めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員・民生委員・家族などの参加を得て色々な意見をいただいている	会議は定期的開催している。事業所の状況や外部評価の報告・ヒヤリハット報告などを行い、救命救急講習も実施している。家族や近隣の住民も参加するなど、事業所への理解を深めたり情報発信の場にもなっている。そこでの意見を職員で話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎回運営推進会議には市の職員も参加してもらい、協力関係ができています	市の担当者には、必要に応じて情報を交換して助言を貰っている。キャラバンメイト活動や認知症サポーター養成講座などでも連携を図っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束・虐待については毎年研修を行い、正しく理解し、身体拘束をしないケアは実践している	事例や課題に基づいて毎年、勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。禁句マナー集を利用して、言葉による拘束も含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会で日中の玄関は施錠せずに職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックなど無いように注意を払ったケアを実践している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人制度の方とのかかわりはまだないが、研修など参加し理解はしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・また、介護保険制度の改定時は常用事項を使い説明を行い、その都度契約を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項に相談窓口、担当者・解決責任者等を明記している。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、家族からは面会時や運営推進会議などが意見を聞く良い機会となっている。出された意見や要望は申し送りノートや気づきノート・ほめノートに記録して、情報を共有し職員で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や普段の業務の中でも自由に意見を言い合える。また、必要に応じて施設用等に報告し反映できるシステム作りはできている	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、申し送りノートや会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。昼休み時間のお茶飲み会では何でも話せる雰囲気がある。提案や意見についても、お試し期間を設けて反映に繋げている。年に1回面接も設けている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来るだけ残業しない業務体制や毎年の昇給資格手当の充実などを図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年個別に面談を行い、力量の評価をしている。また、職員も資格取得に積極的で、介護福祉士の取得者は60%を超えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修会や交流会を通じた施設の職員等の交流を図っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に前施設やケアマネ・主治医等からの情報収集を行い、本人の不安感の減少や意向の確認に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時等ゆっくりと家族との面談を行い、不安や要望等に確認に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族だけではなく、前施設やケアマネ、主治医等の意見も参考にして対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、洗濯物を畳んだり、日向ぼっこをしながらお茶を飲んだりともに一緒に過ごすようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加・運営推進会議への参加呼びかけ等、職員との関係性を深めながら一緒に支援を行うことを目指している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加など、馴染みの場所や、関係性を大切にし竹を目指している	馴染みの店での外食・買い物・ドライブを兼ねての田植え見物などに出かけている。知人友人の訪問を奨励し、お茶を出すなどして継続的關係が途切れないよう働きかけている。年間計画で花見や鶴見学にも出かけている。さらに外出や外食・理美容院利用・墓参など、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の相性、一緒に行える作業などトラブルが無いように、また、それぞれが関係性が高められるように考え支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の場合はお見舞いに行ったり、相談ごとなどいつでも受けるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別のアセスメント、カンファレンス等を通じ一人一人の思いを把握できるように努めている	日々の関わりの中で、表情や言葉・しぐさなどから思いや意向の把握に努めている。昼食後など把握しやすい。夜勤の時にはマンツーマンでの傾聴にも努めている。職員も気づきを記録し、申し送りなどを利用して職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・担当ケアマネ・主治医等からの情報を集めて対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全スタッフが介護経過記録に記入し、カンファレンスなど情報を共有しその方の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには、本人・家族・主治医等の参加があり、ケアプランやモニタリングの作成を行っている	面会時などで本人や家族の意向を確認している。主治医の意見も取り入れ、担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録、受診表、個人票などを活用し、全スタッフが情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付添や、散髪の援助などその方の必要に応じて支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見・文化祭へ参加し、お茶をいただく・作品を出展する等地域の中で、心身の力や資源を利用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携は毎日とり、必要に応じてたかかりつけ医を受診する場合は、必要に応じてツキを意も行っている	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の定期的な往診もある。他科受診は家族の協力を得ながら必要時に職員が対応している。協力医療機関との24時間対応の医療連携体制により、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に病院があり、日常的に、また、変化があった場合など24時間体制で連絡・相談できる体制が整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院との連携、また、ソーシャルワーカーとの連携もとりながら、退院後の心配が無いように協働している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を文章にして説明同意をもらい、又その都度主治医を交えてリスク根説明やターミナル時の考えを確認している	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意書を貰っている。状況変化に伴い随時話し合い、家族の意向を確認し、医療機関や同系列の老人保健施設での対応も説明し、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、すぐに対応できるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施。また、当施設は水害・がけ崩れなど心配ない場所にある。また、非常食などは隣接する老健が備えている	年2回消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練等を実施している。隣接する老人保健施設との協力体制も構築されている。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、定期点検も実施している。自治会長に災害訓練への参加を依頼するなど地域の見守り体制もできている。水や食料等、カセットコンロなどを老人保健施設と共同で備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時は必ずドアを閉める、人前で大きな声での誘導は行わない等徹底して行っている	利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。定期的に勉強会を行って、職員の資質向上に取り組んでいる。入室時・入浴・トイレ誘導などでは羞恥心に配慮するなど、日頃から誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時服を選んでもらう、入浴の意思の確認など自己決定の場面を多く作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	緩やかにその日の流れは決めてあるが、その日の状態で希望に沿った援助ができるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の洗面時は鏡を見てもらう、散髪援助など身だしなみを整えるように援助している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態・好みなど把握し、いただきますの声かけなどできることを一緒に行っている	嗜好に配慮した献立や食事形態を工夫している。個々人の能力に合わせ、食事の挨拶の声かけや準備・片付けなど、職員と一緒にしている。誕生会や行事食・前庭での食事や外食、家族との茶話会など食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリー計算。食事摂取量のチェックなど確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔清拭をその方のレベルに応じ支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとの誘導ではなく、その方の排せつパターンを把握し、支援している	排泄パターンの把握に努め、表情やそぶりなどから、必要に応じて声かけや見守り、さらに確認することでトイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間はポータブルトイレ利用など個々に対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理を行い、必要に応じて下剤を用い、便秘を予防している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は曜日を決めず、その方の意思によって支援している。また、ゆっくりと入浴が楽しめるように留意している	基本的には週2～3回、午後の入浴になっているが、希望でいつでも入浴できるように柔軟に対応している。入浴を拒む利用者にも声かけや時間調整など、職員間で連携し、状況改善に努め、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ昼夜逆転を防止できるように無理のない程度に、昼間を活動的に過ごせるようにレクや散歩など取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管し、薬の配役間違いが無いように毎日チェックを行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクの工夫。手芸や工作・園芸などその方の得意なものや好きなものが出来るように支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	土地柄、農家の方が多いので、田植えや稲刈り時などの田んぼが見える場所へのドライブ、家族との外出などの呼びかけを行っている	日常的には周辺の散歩や中庭での茶話会や外気浴を楽しんでいる。計画を立てて、季節ごとの花見や鶴マラソン・梅マラソンの見物・かかし祭り・ドライブを兼ねて田植えや稲刈りの見物など、戸外に出かけられるように支援している。家族の協力を得て、外出や外食に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持することが皆さん難しくなっているため、必要に応じて家族と相談セエル		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方にいる家族からの電話や手紙のやり取りの支援を行っている。また、グループホームの新聞や近況報告を送っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、又前庭が広くあり、時にはそこで食事をとっている	共用空間は広くゆったりしている。前庭が広く開放感があり、採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。台所は対面式で利用者との会話もできIH様式で安全である。季節感を大事にした飾りつけがされて、ゆったりしたソファで居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所でくつろげるように席やソファの場所など工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家具など思い思いに持ってこれるようにお願いしてある	居室はベッド・エアコン・クローゼット・洗面台が備え付けである。テレビ・寝具・家族写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮し、携帯電話の利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、バリアフリーなど安全に過ごせるように、又その応力が活かせるような作りになっている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない